



第35号  
発行年月日  
平成27年3月1日  
日田市南友田100-1  
日田木材協同組合  
総務企画委員会発行  
TEL24-2167

### ★日田木材協同組合百年を語る

明治十七年には船方、木屋方、物産方協議のうえ新しい規約を決定している。

治川料は舟筏とも前年同様であるが、通船を申し受けずに川下した場合は、長谷改所で川下し差し止め、一倍の治川料を差出すべし、また筑後床嶋井出さらえ費として、治川料収入金から二〇円を木屋方に渡し、木屋方はこれで掘りさらえること。

若し、この規約に違反した場合は、過怠金として一円宛差出すべしと一層厳しい取り定めをしている。

このころになると木材業者も一段と増加しており、取引や舟筏下しにも一層問題も多くなり、且つ複雑になってきたので、円滑な運営を計るために何らかの業者の組織を必要とするようになったのではなからうか。

すでに明治五年に株仲間廃止され、一般的にはこれにかわる組織として同業者の組合が結成されるようになったといわれるが、果たして日田の場合、何年に組合が結成されたか、これを明らかにする記録が残念ながら残っていない。

大正三年の日田郡木竹商同業組合業務報告の中に、当日田郡は古来杉材地にして材木業の元祖を温めるに遠く享保の交にありと云ふ、爾来興廢相次ぎ近く明治十五、六年頃より同業相謀り木竹商組合を組織し、漸次業者の数も増加せるが従って弊害又伴い時世の進歩に幅はざるの概ありき…とある。

次号へ続く

### ★筑後川流域木材活用 ネットワーク 準備会」の懇談会



### 筑後川流域木材活用ネットワーク

を構築するための準備委員会懇談会を開催しました。目的は昭和30年代まで、大川市との木材を通じた交流が盛んに行われていたが、近年は結びつきが希薄となっていることから、今後、交流を再構築し、日田材を使用した家具を製作してもらうためです。現在、大川の家具は、大部分が外材を使用して作られています。しかし、現地の外材の調達が困難になりつつあることや、円安による原料の仕入れが割高になっていること、また、スギやヒノキでも十分に対応できることなどから、今後、日田材を使用してもらうよう、お互いに協議を進めていくよう確認をしたところでした。これから、事務局どうしで、今後の協議会の進め方を検討し、協議が整ってからの、組合員の皆様にも参加していただきたいと考えています。

### ★大川家具展示会

#### 福岡県産材の活用と大川からの提案

二月十二日(木) アクロス福岡 2階 交流ギャラリーにて、福岡県産材の活用と大川からの提案「オフィス・公共施設等をテーマにした家具展示会が開催されました。この展示会への出席は、日田木材協同組合が昨年より行っている家具工業会との懇談会や筑後川流域木材活用ネットワーク準備会での大川インテリア振興センターとの懇談会など日田製材業界から川下へむけての関係再構築を模索する為のアクションの一つです。当日は、杉・桧材を使用したオフィス及び自治体、公共施設用の家具・装備品や建具、床材等が展示され、多くの見学者で賑わっていました。



### ★九州の森林・林業・木材産業 交流会 i 日田

#### 交流会 i 日田

1月21日、パトリア日田にて九州経済連合会主催による九州の森林・林業・木材産業交流会「i 日田」が開催されました。東京大学大学院木質構造学研究室の安藤直人特任教授をお招きし、木造建築の将来について」と題し、講演をいただきました。第2部では、原田市長をはじめ、瀬戸製材(株)瀬戸社長、池見林産工業(株)久津輪社長、

長、阪根宏彦計画設計事務所阪根代表によるパネルディスカッションが催されました。



### ★お知らせ

#### ○木づかい促進事業が創設されます

これまで、日田材需要拡大緊急対策事業で実施してきました、日田材プレゼント事業が平成27年度から国庫事業を導入して、木づかい促進事業」として創設されます。

事業の内容は住宅の新築やリフォームで日田材を一定以上使用した場合に、日田材や日田家具の購入に対して、助成を行うものです。また、店舗のリフォームに対しても助成が行われる予定です。詳細については、これから、日田市役所で詰め作業が行われ、議会の承認を経て、4月1日から事業が開始される予定です。今のところ、新築の材料支給には最大35万円の助成が、家具の購入には385千円分の家具支給ポイントが付与されます。また、リフォームには最大15万円の支給、家具は165千円分のポイントが支給される予定です。詳細が決定しましたら再度皆様にお知らせします。なお、市報の4月1日号に詳細が掲載される予定です。

#### ○乾燥材の生産について

今後の製品取引においては、総量が減少すると見込まれるため、他地域等との差別化がさらに必要となります。その一つとして、乾燥材に取り組みたいところにおきましては、乾燥材の生産に取り組みたいと考えます。また、強度を表示する仕組みづくりにも、これから取り組む必要があるかと考えています。また、海外輸出にも力を入れる必要があると考えています。これからより一層、消費を拡大するためのアイデアがありましたら、当組合にお寄せください。 小関

#### ○木材に関する勉強会

##### 第8回 木造建築物の課題

日時 3月10日 午後6時  
場所 日田木材協同組合  
最終回 国・県の施策及び製品の需給  
動向  
日時 3月24日 午後6時  
場所 日田木材協同組合

○木協顧問 後藤豊次様が二月一日ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。